



にし阿波の 傾斜地農耕システム



世界農業遺産
平成30年3月認定
日本農業遺産
平成29年3月認定

徳島県にし阿波地域

にし阿波地域の山間部に点在している集落は、いずれも急峻な傾斜地に位置し、場所によっては斜度40度にも及びます。この傾斜地を段々畑のような平らな面に造成するのではなく、傾斜地のまま農耕を行ってきました。これにより培われた独自の技と知恵によって、景観や食文化、生態系、農耕にまつわる伝統行事等が守られ、400年以上にわたり継承されています。

食と暮らしを支える



縄文時代からの歴史がある雑穀文化は、現在でも日々の暮らしに役立てられています。

風土に根付いた文化



ユネスコ無形文化遺産（風流踊の一つ）に登録されている西祖谷の神代踊やお亥の子さん等の農業催事といった伝統行事が受け継がれています。

人と環境が 調和した景観



傾斜地で農耕生活が営まれることで、にし阿波ならではの景観が生まれています。

傾斜地農耕システム



伝統と自然を守る



にし阿波の傾斜地農耕システムを象徴するコエグロは採取したカヤを円錐状に積み上げて乾燥させたものです。カヤは肥やしになり、土砂の流出も防ぐ等、農耕に役立っています。

生物と植物の宝庫



種子が保存されてきたため、雑穀や野菜は原種に近い希少なものとなっています。カヤ場は人の手によって生物多様性が保たれているため、希少な植物や昆虫等、多種多様な動植物が生息しています。

世界・日本農業遺産認定による効果と取組

持続可能な にし阿波農業

農産物・加工品のブランド化

「にし阿波の傾斜地農耕システム」で生産された農産物とそれを用いた加工品を認証し、ブランド化による農家の所得向上や傾斜地農法の継承を図っている。



□ ブランド認証件数：115件（R7年12月時点 ※R1年度より開始）

体験型教育旅行の推進

農泊施設を対象に、本地域ならではの農業遺産体験メニューの造成や宿泊サービス向上に向けた受入体制を支援し、都市住民との交流拡大と農業遺産の付加価値向上を図っている。

□ 体験型教育旅行（年間）：3,319人泊（R1）→6,343人泊（R6）

関心層に響く 情報発信

SNSを活用した認知度の向上

公式HP、Instagram、YouTubeに傾斜地集落の暮らし等の写真と紹介記事を随時投稿し、国内外へ広く情報発信している。



□ 公式Instagramのフォロワー数及び投稿数
：2,530人、1,357回（R8年5月時点 ※R1年度より開始）

ツアーや視察受入による認知度の向上

農業遺産の認知度を高めるため、傾斜地農耕システムを学び、体感できるスタディーツアーの実施や視察の受入を行っている。

□ 視察件数（年間）：15件（H30）→16件（R7）

GIAHSポイントの認定

傾斜地農耕システムを象徴する地点をGIAHSポイントに認定し、国内外へ発信することで、認知度の向上と観光誘客へ繋げている。

□ 認定数（延べ）：9件（R7年12月時点 ※R5年度より開始）

担い手づくりと啓発

児童・学生へのSDGs教育

「にし阿波の傾斜地農耕システム」を体系的に地域の学校で教えることにより、地域に愛着と誇りを持った次代を担う人材を育成している。



□ 出前授業及び体験学習の件数（年間）：11件（R1）→43件（R6）

農文化、食文化の継承

本地域の傾斜地農耕や伝統料理等に卓越し、食と農の分野で活躍している者を、「徳島・にし阿波 食と農の名人」として認定し、「名人」が有する知識・経験・技術等を次世代に継承するための活動を支援している。

□ 徳島・にし阿波 食と農の名人認定数
：38人（R8年2月時点 ※H29年度より開始）

生物多様性・集落の保全

採草地・集落景観の適切な管理

これまで実施した生物多様性調査によって、カヤ場には、希少な動植物が生息していることを確認。自然環境に人の手が入ること、生物多様性が保たれている。また、地域住民との協働や地域農業団体等との連携により、集落景観の保全活動を推進している。



□ 生物多様性調査結果（H27+R5調査）

・植物 364種 ・哺乳類 16種
・鳥類 54種 ・両性、爬虫類 12種 ・昆虫類 444種

在来品種の保全

にし阿波地域では雑穀や野菜の原種に近い種子が保存されてきた。これらを継承するために組合が設立されている。

□ 在来雑穀系統数（維持）：15種（R7年3月時点）